

三朝町望ましい小学校施設等に関する提案書

令和2年7月

三朝町望ましい小学校施設等検討委員会

目 次

1	はじめに	．．．	1
2	三朝小学校施設等を取り巻く現状・課題と方向性	．．．	2
3	実現可能な望ましい小学校施設等の姿	．．．	4
4	整備スケジュール	．．．	9
5	資 料	．．．	10

1 はじめに

三朝町では 50 年以上に渡って小学校が 3 か所という状態が続いていたが、いずれも施設の老朽化に加え、少子化による児童数、学級数の減少という問題を抱え、統合を含めた整備のあり方についてさまざまな議論が重ねられてきた。

その結果、昨年 4 月、児童数、学級数の減少問題への対策を先行する形で、3 つの小学校が現在の三朝小学校一校に統合された。

統合された小学校で使用する校舎は昭和 42 年建設と築 50 年以上経過しており、耐震補強工事は行われているものの、建物自体の老朽化と学校現場の需要に対応しきれない手狭な各室の現状を踏まえ、施設整備の方向性について早期に決定することが喫緊の課題となっていた。

こうした中、令和 2 年 1 月に、小学校施設等の整備方針について専門的見地からの検討を行うことを目的として、「三朝町望ましい小学校施設等検討委員会」が設置され、三朝町にふさわしく、望ましい小学校施設等の整備方針について、実現可能性も考慮しながら検討を進めてきた。

本書は、その検討結果を提案書としてまとめたものである。

本検討委員会としては、本提案が町執行部をはじめ、教育委員会会議や町議会で速やかに検討されるとともに、三朝町の子どもたちが笑顔で通うことができる学校施設が早期に建設され、新しい時代にふさわしい教育が提供されることを切に願う。

三朝町望ましい小学校施設等検討委員会

委員長 宮 脇 儀 裕

2 三朝小学校施設等を取り巻く現状・課題と方向性

(1) 現状

① 施設の老朽化・安全性

- 小学校管理教室棟は築 53 年が経過し、鉄筋コンクリート造の一般的な耐用年限とされる 47 年を超過している。
- 施設の随所で雨漏り、損耗等が見られ、経年劣化が顕著である。
- いずれも耐震改修工事が行われ、躯体の安全性は確保されているもの、大規模改修工事が行われておらず、外壁材、天井等の非構造部材の耐震対策は十分とは言えない。
- バリアフリー化や現在の教育環境としては要求される水準と照らすと機能的に不十分な面が多い。

施設名称	棟名称	建築／経過	面積	備考
三朝小学校	管理教室棟	S42／53 年	2,287 m ²	耐震補強 (H22)
	教室棟	S56／39 年	498 m ²	
	体育館	S43／52 年	716 m ²	
三朝中学校	教室棟	S37／58 年	1,964 m ²	耐震補強・大規模改修 (H19)
	管理棟	S61／34 年	1,545 m ²	
	特別教室棟	S63／32 年	587 m ²	
	体育館	S38／57 年	1,138 m ²	耐震補強 (H19)

② 立地

- 現在の小学校は、町内の道路交通網の要に位置し、通学等の利便性に優れている。
- 小学校敷地内には三朝町上水道の水源があり、地下水脈への影響等を踏まえると敷地内での大規模な工事は難しい。

(2) 課題

① 少子化

- 将来推計人口によると、少子化に伴い、小学校は令和 7 年、中学校は令和 17 年からクラス数の減少が始まることが想定されている（令和元年の住民基本台帳に基づく人口及び国立社会保障・人口問題研究所による将来推

計人口における年少人口5年毎の増減率で現在の児童・生徒数を割り戻した将来推計結果、下表①②）。

- また、近年の年間出生数に基づく推計では、最短で小中学校とも令和15年にはクラス数が1となる可能性がある（近年、三朝町の年間出生数は小学校1年生のクラス最大人数である35人を割る年が続いている、下表③④）。

	R1 2019	R2 2020	R7 2025	R12 2030	R17 2035	R22 2040	R27 2045
小学生(人)	306	293	250	220	188	164	147
中学生(人)	182	167	125	131	112	99	85
①小学校クラス数	12	12	11	10	8	7	6
②中学校クラス数	6	6	6	6	5	4	3
③小学校クラス数	12	12	11	6	6	6	6
④中学校クラス数	6	6	6	6	3	3	3

② 財政事情

- 町の厳しい財政事情を踏まえ、整備費用の縮減はもとより、用地取得費や仮設校舎設置費等の関連経費が限りなく縮減できる計画とすることが望まれている。
- また、活用可能な国庫補助など町財政に優位な財源の積極的な活用を図ることも検討が必要である（統合後おおむね6年以内の校舎等整備が対象とされる国庫負担金の特例制度等）。

（3）現状と課題を踏まえた方向性

前述の現状・課題を踏まえると、現在の小学校は、安全性の確保と適切な教育環境確保の観点から課題が多く、早期に整備を行うことが望ましい。

また、現在地は利便性が高く、町民に親しまれていることから、現位置での建て替えが望まれるが、工事の支障となる特殊な事情を踏まえると、極力、現在の小学校に近接した位置で整備することが求められる。

加えて、町の財政状況を考慮し、投資を限りなく縮減できる場所を優先的に候補地とするとともに、有利な財源の積極的な活用が図れる計画とすることが望ましい。

3 望ましい小学校施設等の姿

(1) 望ましい小学校施設等のあり方

① 「みささっ子教育ビジョン」の実現

新たな小学校施設等の整備は、「みささっ子教育ビジョン」（平成 31 年制定）の目指す子ども像を実現することを基本方針とする。

② 利便性・安全性

新たな小学校施設等は、ハザードエリア外にあって、子どもたちや地域住民も含め町民が支障なく利用でき、町民から広く親しまれる利便性、安全性の高い施設とする。

③ 地域に開かれた学校

地域と共に歩む学校であることはこれからの学校づくりの観点において重要な要素であり、地域に開かれた学校施設として、体育館だけでなく、教育 I C T 機器が整備された会議室や調理実習ができる家庭科室等も地域に開放できるような仕組みとする。

(2) 望ましい小学校施設等の立地

以上の種々の条件を踏まえると、望ましい小学校施設の立地は、

- 現在の小学校に近く、子どもたちの通学や地域住民も含め町民のアクセスが容易な場所。
- ハザードエリア外にあって、必要とされる全ての施設が整備可能な広さを有し、極力、用地取得を要しない安全な敷地であること。

が重要であり、これらを踏まえると、現在の中学校の敷地が最も適していると考えられる。

なお、この場合、将来的な施設一体型小中学校連携も視野に入れた、現在の小学校グラウンドも含めた一体的な学校敷地としての活用、トレーニングセンターの小学校施設としての活用、老朽化が進んだ町民プールの更新等についても検討が必要である。

また、以下の点を始め、今後さらに検討を要する課題がある。

- 工事期間中における中学校としてのグラウンドの確保（現在の小学校グラウンドを小学校と共用することを想定）。

[illegible]

（３）新たな小学校施設等の望ましい基本的な整備方針について

新たな小学校施設に望まれる普通教室など各学習関連諸室、便所・手洗いなど生活関連諸室、及び事務室など管理諸室の規模、個所数等基本的な整備方針については、「みささっ子教育ビジョン」及び先進事例等を踏まえた検討結果を参考図（ゾーニング）として巻末に示す。

また、普通教室をはじめとする諸室の規模、個所数等及び検討委員会において配置計画、ゾーニングの検討に使用した平面図を、検討結果を添えた参考図として別冊資料に添付する。

（４）新たな小学校施設等の望ましい設計デザインについて

利用者に優しい設備として、エレベーターや多目的トイレ、スロープの設置を必須とするとともに、子どもたちや教職員の学校生活を豊かにするため、木造または内装木質化を目指すべきと考える。

また、維持管理や環境面において、長期的な維持管理費や長寿命化へ向けた配慮、エコスクールの観点も必要と考えられる。

その他、新たな小学校施設等の設計デザインについて、望ましい考え方を次のとおり示す。

① 積極的な学びを創造する居心地の良い学校づくり

- ・ 内装木質化で温もりと落ち着きのある校舎
- ・ 採光を十分確保した自然光の明るさがもたらされる校舎
- ・ 授業の際に集中できる吸音、遮音
- ・ 教育ＩＣＴ環境の充実（敷地内無線ＬＡＮ環境等）
- ・ 図書室の充実
- ・ 教室面積と廊下幅の広い校舎
- ・ 教職員用更衣室と休憩ラウンジの確保
- ・ 木製室名表示板の設置

② 全ての利用者が安心で安全な学校づくり

- ・ エレベーターの設置
- ・ 多目的トイレの設置
- ・ バリアフリーを取り入れた校舎（スロープの設置等）
- ・ エアコンの全室完備
- ・ 児童（生徒）数に応じたトイレ設置および洋式化
- ・ 教職員の目の行き届く校舎

- ・ 雨天時を考慮した玄関への半屋外空間設置
- ・ 施錠可能な児童生徒玄関
- ・ 監視カメラ、インターフォン、内線電話等警備システムの設置
- ・ ユニバーサルデザインの導入
- ・ 災害時対応として非常用電源の確保

③ 効率の良い学校づくり

- ・ 各教室等における十分な収納スペースの確保
- ・ 年間を通じてより良い学習環境（校舎内の温度、採光、通風、換気等）を確保できる環境調和システムの導入等エコスクールの検討
- ・ 校舎等の維持管理を考慮した設計
- ・ メンテナンス性を鑑みた校舎屋根
- ・ 将来を見据えた小中学校共用スペースの検討

④ 地域に開かれた学校づくり

- ・ コミュニティルームの設置
- ・ 地域開放ゾーンの検討
- ・ 運動施設の充実
- ・ 地域木材を使用したモニュメント等の設置

4 整備スケジュール

前述の候補地において、現在想定される施設等整備スケジュールは次のとおりである。

国の有利な財源を活用し、効率的で効果的かつ早期の整備を実現するために関係者間の連絡調整を十分に行い、整備事業を円滑に進められたい。

	R1		R2				R3				R4				R5				R6				R7	
四半期	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2
三朝中学校敷地内 校舎新築案	基本設計				実施設計								校舎・体育館・プール・(グラウンド) 建設											
							国 事 前 申 請				国 補 助 申 請	国 交 付 決 定											統 合 後 満 6 年	使 用 開 始

5 資 料

(1) 三朝町望ましい小学校施設等検討委員会開催実績及び検討内容

▽第 1 回 令和 2 年 1 月 27 日(月)

- 議題① 委員長及び副委員長の選出について
- ② 三朝町小学校施設等検討に関する意見交換

▽第 2 回 令和 2 年 2 月 28 日(金)

- ※ 新型コロナウイルス感染症対策のため延期

▽第 2 回 令和 2 年 4 月 23 日(木)

- 議題① 本検討委員会における検討の進め方について
- ② 小学校施設の校舎配置と候補地選定等について
- ③ 小中学校視察
- ④ 意見交換

▽第 3 回 令和 2 年 5 月 14 日(木)

- 議題① 望ましい小学校施設等の検討に関する中間報告について
- ② 小学校施設の候補地における課題の検討について
- ③ 本検討委員会としての提案の中間まとめについて
- ④ その他

▽中間報告 令和 2 年 5 月 18 日(月)

三朝町望ましい小学校施設等の検討に関する中間報告を教育長へ提出

▽第 4 回 令和 2 年 6 月 4 日(木)

- 議題① 小学校施設等の望ましい基本的な整備方針と設計デザインについて
- ② その他

▽第 5 回 令和 2 年 6 月 18 日(木)

- 議題① 小学校施設等の望ましい整備方針について
- ② 本検討委員会としての提案書内容について

▽第 6 回 令和 2 年 6 月 25 日(木)

議題① 本検討委員会としての提案書内容について

▽提案提出 令和 2 年 7 月 13 日(月)

三朝町望ましい小学校施設等の検討に関する提案書を教育長へ提出

(2) 三朝町望ましい小学校施設等検討委員会委員名簿

▽委 員

選出 区分	所 属	職名等	氏 名	備 考
学識 経験者	鳥取短期大学生生活学科	教 授	宮脇 儀裕	委員長
	鳥取大学 地域学部地域学科	講 師	石山 雄貴	
	中部教育局 社会教育担当	係 長	徳永 正樹	R1 年度は西村信彦氏
	第 2 次三朝町教育 ビジョン策定審議会	副座長	藤井 隆	
地域 代表	地域協議会連絡会	幹 事	大坂 芳郎	副委員長 三徳地域協議会長
学校 関係者	三朝小学校	校 長	藤原 彰二	R1 年度は富山秀敏氏
		教 諭	山本 尚美	
	三朝中学校	校 長	吉田 朋幸	

▽オブザーバー

所 属	備 考
安本・戸田設計特定委託業務共同企業体	基本設計受託者

▽事務局

所 属	職名等	氏 名	備 考
三朝町教育委員会事務局 教育総務課	課 長	山中 恵子	
	指導主事	小谷 渉	
	係 長	福田 徹	
	専門員	早苗 睦巳	

